

# 大分県における社会経済の再活性化に向けた緊急対応について

令和2年7月7日  
社会経済再活性化緊急推進本部

## 1 生活の維持や事業・雇用の継続を下支えする支援策の利用促進

支援策の利用は着実に増えてきている。今後も、助けを必要としている方々に支援策を着実に届けるとともに、申請しやすい環境整備を含めその利用を推進していく。

### (1) 生活の維持

○収入の減少等により生活に困難を抱える方々を支えるための貸付制度実績  
・生活福祉資金特例貸付(7/6現在):融資実績31.6億円(10,564件)

○全国民に対する一律10万円の給付金の実績  
・特別定額給付金(7/3現在):給付実績1,125億円(1,125,200人)

○低所得のひとり親家庭世帯に対する臨時特別給付金を支給

・臨時特例給付金 1世帯5万円、第2子以降1人につき3万円加算

### (2) 事業の継続

○中小法人・個人事業者のための事業全般に広く使える給付金(持続化給付金)の迅速な給付に向けた支援  
・商工団体による相談対応件数(6/26現在):6,049件

○低利や無利子無担保の県の融資制度等による中小・小規模事業者への支援  
・新型コロナウイルス感染症緊急対策特別資金(7/3現在)  
:融資実績337億円(2,424件)  
・がんばろう!おおいた資金繰り応援資金(7/3現在)  
:融資実績415億円(3,205件)  
・大分県中小企業・小規模事業者応援金(7/6現在)  
:受付件数5,468件  
(支給実績:8億4,135万円)

○税制上の措置

・収入が急減している事業者に対する県税徴収猶予制度の特例  
(6/30現在):承認済6,070万円(165件)

### (3) 雇用の継続

○事業者が休業手当を支給して従業員を休ませた場合等に支給される雇用調整助成金の実績・支援件数

- ・大分労働局における支給決定数（7/3現在）：2,982件  
※6/29現在で支給割合は全国平均を大きく上回る81%
- ・大分労働局における相談件数（7/3現在）：4,091件
- ・大分県雇用維持支援センターの社労士による申請書類の書き方支援等（7/3現在）：483件

○倒産状況等

- ・新型コロナウイルス関連倒産（6/8現在）：3件
- ・大分県の解雇等見込み労働者数（6/26現在）：216人  
⇒ 県・市町村・労働局からなる雇用確保連携会議などにより、支援が必要な離職者を支えていく。

## 2 社会経済の再活性化に向けた各分野の方向性

分野ごとに感染症克服と経済活性化の両立を図り、新たな日常を構築する。Web会議も活用し、集中的に各分野の関係者と議論を進める。

### (1) 観光

- ・地域社会の観光客受入に対する不安払拭と旅行者の安心確保  
⇒ 宿泊施設感染症対策チェックリストに基づく感染症対策を実施中。  
宿泊者アンケート結果（6/21現在）：回答数2,429  
「気になる点がなく、安心して泊まることができた」98.0%  
いただいた意見をチェックリストに反映し、「おおいた旅クーポン」で活用
- ⇒ 「応援割」の実施等により6月以降の宿泊需要に回復の兆し。  
今後実施する「おおいた旅クーポン」では、県内554の旅館ホテルと56の地元旅行業者が参加。クーポン8,000枚の募集に対し、43,276人の申込みがあるなど県民の旅行需要が高まりつつある。  
また、本県と熊本県や宮崎県など隣接県の相互誘客を実施。地元旅行業者と連携して割引旅行商品を造成し、7月13日から順次販売。  
今後も、段階的にエリアを拡大しながら、更なる需要回復を推進。

- ・行動変容（密集を避ける、遠出を控える等）に起因する「新しい旅のかたち」への移行
  - ⇒ 簡易宿泊所も含め観光事業者は、苦しい状況に変わらないが、オンラインツアーや体験型旅行など「新しい旅のかたち」への検討に着手
  - ⇒ **アマビエ × シンフロで終息祈願 「うちフロ」 動画公開（5/28）**  
 ※再生回数：約110万回

## （２）飲食、小売・商店街等

### （飲食）

- ・各店舗における3密を避ける取組・工夫も含め、一人一人が考え楽しく飲食できる「新しい生活様式」への移行・定着
  - ⇒ 各店舗において、それぞれの状況に応じた感染症対策が進みつつある。また、大分県酒造組合は、大分県職員と共に「新しい生活様式『飲みごと』を考えよう会」を開催（5/15）、その結果も公表
  - ⇒ **一般の方からSNS上でハッシュタグをつけて新しい飲み方提案等の投稿を募集する「#NEW飲コミュニケーション投稿キャンペーン」を実施（7/7～31）**  
 県内蔵元などの協賛を受け、抽選で大分の魅力あふれる商品を投稿者にプレゼント
  - ⇒ 飲食店が自ら感染予防策を自己診断し、POPの作成もできるサイトを開設（6/4）～安心はおいしい～ <https://anshin-oishi.com>  
 利用者（ユーザー）数（7/5現在）：1,683人
  - ⇒ 県内産清酒・焼酎消費拡大のためNPO法人大分県地酒・焼酎文化創造会議が県内蔵元等と協力し、店頭試飲即売会や酒蔵巡りバスツアー、クラウドファンディングを実施（5/30～3/28）
  - ⇒ 県産かぼすを使用したビール「おつかれ山ビール」の発売に合わせ「新しい生活様式」に沿ったオンライン交流会を豊後大野市が開催（6/30）

### （小売・商店街等）

- ・インターネットによる購入の増加・定着や、地元経済の価値再発見の機会、人や物の流れの変化を捉える。
  - ⇒ 「おんせん県おおいたオンラインショップ」（楽天市場）に92の事業者（菓子、麺類、肉、魚、加工品など）が参加し、復興応援「復袋」キャンペーンを展開。5月の総売上対前年同月比750%を記録。

### (3) 芸術文化・スポーツ

- ・ウィズコロナの中でも芸術文化やスポーツを楽しめる仕組みづくり  
(会場等に足を運ぶことなく自宅などで楽しめる鑑賞機会・手法の創出 等)

#### ○芸術文化

- ⇒ 「アルゲリッチからあなたへ 音楽の贈り物」(演奏動画)の配信
- ⇒ ギャラリートーク(坂茂設計事務所 ⇄ OPAM)の配信(Zoom)  
YoutubeOPAMチャンネル(坂茂展メイキング、コレクション展の解説 等)
- ⇒ 感染症対策:サーモグラフィ・空気清浄機の導入、2m間隔での入館待機 等
- ⇒ **「珠玉の東京富士美術館コレクション」(7/22~9/6)**  
※感染症対策:サーモグラフィ、来館者の氏名・連絡先記入、入室制限100名 等
- ⇒ **動画配信用のコンテンツ整備等に着手**  
(7月下旬~ BEPPU PROJECT、アルゲリッチ芸術振興財団 等)

#### ○スポーツ

- ⇒ 大分トリニータ:チャリティ対談の動画配信 等
- 三好ヴァイセアドラー:自宅で行うトレーニング方法の配信 等
- バサジィ大分:ファンへのメッセージ動画の配信 等
- ⇒ 感染症対策(トリニータ)  
サーモグラフィの導入、消毒液・マスクの用意(Jリーグから貸与・配布) 等
- ⇒ **J1リーグ再開(7月4日:トリニータ(ホーム)vsサガン鳥栖)**  
Jリーグガイドライン(37.5度以上は入場不可、声を出しての応援不可 等)  
※7/10~:5,000人以下、8/1~:収容人数の50%以下  
トリボード 2, 810体(7/4サガン鳥栖戦)  
※クラウドファンディング 8,451,500円(目標1千万円)
- ⇒ **Vリーグ開幕(10月17日:大分三好ヴァイセアドラーvsJT広島)**
- ⇒ **県内プロ選手によるトレーニング方法等の紹介動画の配信(6/24~)**  
※現在7本を配信中(7月末までに新作15本を作成(毎週))

### (4) 交通

- ・地域交通の新規需要開拓による「地域の移動手段」の維持
- ⇒ デリバリータクシーの実施(有償貨物運送の許可)
- ⇒ 感染症対策:最前列(バス)の使用制限、窓の開放、座席の消毒 等
- ⇒ **大分県バス協会:企画商品造成(プレミアム付き)**  
[例]日田バス(7月中旬~ 販売額5,000円)  
「くじゅう花公園とガンジーファーム」(竹田市)  
「粟島社と長崎鼻」(豊後高田市)

- ⇒ お墓参りサポートタクシー（7/1～ 第一交通タクシー）
  - ※代行サービス（清掃 等）：運賃＋5千円（写真報告あり）
  - 同行サービス（送迎 等）：運賃＋3千円
- ⇒ フェリー会社：企画商品造成（県内誘客）
  - [例] 宇和島運輸、九四オレンジフェリー（7月中旬～、愛媛発）
  - 乗用車往復 18,000 円＋船内売店・食堂の利用券 2,000 円

## （５）ものづくり

- ・生産活動の国内回帰の動き、サプライチェーンの変化を捉え、大分での新しい投資・雇用を生み出す。
- ・中小企業の新しい分野への挑戦や新規の顧客獲得、計画された設備投資を停滞させない。
  - ⇒ コロナ禍においても新工場設立により新規市場を狙う企業も。
  - ⇒ 「新型コロナウイルス感染症対策関連機器 見本市」（7/10開催）
  - 新型コロナウイルス感染症対策関連機器を開発・製造した企業が、医療機関や社会福祉施設の関係者等向けに商品の見本市を行い、県産機器の販路拡大を推進（出展企業数：13社）

## （６）農林水産業

- ・コロナの影響を受けたおおいた和牛や高級魚等の消費回復
  - ⇒ 学校給食への提供（7月1日～順次）
  - ⇒ 養殖ヒラメのクドア全尾検査による出荷拡大
  - ⇒ 養殖ヒラメ、おおいた和牛等の生産者によるネット販売
  - ⇒ ハモ等の家庭消費向け直接販売
  - ⇒ キク・ホオズキの用途拡大に向けた消費者へのPR
  - ⇒ 花き生産者による加工品販売
- ・戦略品目の旬を捉えた量販店等とのタイアップによる販売促進
  - ⇒ ハモの骨切り加工による新たな販路開拓
  - ⇒ 養殖ブリのコンビニ向け商材の加工・出荷
  - ⇒ 外食産業との協調によるネット販売等販路開拓
  - ⇒ 夏ブリ需要に対応した「かぼすブリ」の前倒し出荷
- ・次期作支援等による生産の維持・拡大
  - ⇒ 森林組合等の間伐への移行、県営林の伐採の延期による木材の出荷抑制
  - ⇒ 業務量が減少したテレビ制作会社と農業とのマッチング
  - ⇒ 花き生産者による多品目化の検討開始

## (7) 土木建築業

- ・感染拡大防止に努め、経済の下支えとなる公共工事の着実な推進  
⇒ 早期執行を図るため、入札制度の弾力的運用として見積期間の短縮や技術審査の簡略化を実施
- ・観光エリアへのアクセス向上、安全で快適な道路環境などの創出
- ・誘客多角化に向けた地域観光施設の魅力向上  
⇒ **東九州自動車道大分県内全線開通5周年記念スタンプラリーの実施  
(2020年7月～2021年2月)**
- ・地方創生を強力に推進するため、地方創生回廊の構築や県土の強靱化を実施

## (8) ベンチャー（横断的分野）

- ・変化の中で生まれる社会課題や地域課題をビジネスチャンスと捉え、その解決に挑戦  
⇒ ビジネスを通じて持続的なサービスとして社会課題に貢献する企業等も出現
- ・コロナ禍の中においても、ベンチャー・創業を多様化する生き方の受け皿として残し続ける。  
⇒ **大分ベンチャーキャピタルでは、16億円規模のファンドを新設、世界に通用する技術やサービスを提供する地元ベンチャーを支援する。**  
⇒ **豊和銀行では、フューチャーベンチャーキャピタル（本社：京都市）と共同し、3億円規模のファンドを新設。創業、第二創業、事業承継に取り組む企業及び成長が期待できる企業等を投資対象として、人口減少やコロナ禍においても地域活性化に資する事業者を積極的に支援する。**

## (9) 宇宙港・先端技術（横断的分野）

- ・コロナ禍においても成長を続ける宇宙産業（※）への挑戦を通じて、地球規模の課題に貢献  
⇒ 大分県と提携している米国 Virgin Orbit 社は、初の空中発射実験を実施（5/25）。また、同社は、来年打上げ予定の英国において、地上設備の地元調達に向けた説明会を開催（6/4）  
※ こうのとりの9号機の打上げ（5/21）、Virgin Orbit 初のロケット発射実験（5/25）、Space X による初の有人飛行（5/30）
- ・アバターやAI、ドローンなど先端技術の活用により、社会課題や地域課題の解決を推進  
⇒ 商店街が活気を取り戻すためにアバターを用いたり、地域の社会福祉協議会が子育て支援にアバターを用いたりする例も出てきている。

- ⇒ 県内企業における宇宙関連産業への挑戦機運の醸成等を図るため、第1回 ISTS 地元事業実行委員会を開催（6/16）し、取組内容を決定
- ⇒ 地域課題の解決とドローンビジネス活性化のため、利用者とサービス提供者をマッチングするドローンビジネスプラットフォーマーを育成

### （10）イベントの活用（横断的分野）

- ・おおいた和牛等の県産品の需要回復、芸術文化団体等の活動再開などを後押しするため、イベントを活用した業界団体等の販売展開などを伴走型で支援
- ・「新しい生活様式」に対応したイベントの実現に向け、感染症予防や3密回避対策への支援（チェックリストの提供 等）
- ⇒ **TAO夏フェス2020（8/6～8/23 竹田市久住）**
  - ※感染症対策の留意点とりまとめ（豊肥振興局・保健所が協力）
    - ・前後左右を開けた324席のキャパ、メンバー等はフェイスシールド、1m程度の間隔を開けたエアハイタッチ、プレゼント禁止、来場者と接触するような演出は実施しない 等
- ⇒ **地域活力づくり総合補助金（相談 239件）**
  - 新型コロナウイルス感染症対策緊急支援事業（上限100万円、県10/10）
    - ・新酒試飲イベント参加券（地酒付き）の販売
    - ・ハモやブランドカキ「ひがた美人」等のドライブスルー方式販売 等

## 3 感染症に強い経済構造の構築（緊急的に取り組む課題）

医療体制の確立に加え、デジタル化・スマート化や新たな働き方を進め、感染症に強い経済構造を構築する。

### （1）デジタル化・スマート化

- ・Web会議の開催や参加が容易に出来る環境整備を推進
- ・「1人1台端末」の早期整備など、「GIGAスクール構想」をハード・ソフト両面から加速し、全ての子どもの学びを保障できる環境を早急の実現
- ・高校においても今年度可能な限り早期に「1人1台端末」を実現
- ・県内の感染状況見える化など、社会的・経済的にニーズの高いデータを公開し、社会課題・地域課題の解決につなげるオープンデータの取組を推進
  - ⇒ 大分にゆかりのある有志が「大分県新型コロナウイルス感染症対策サイト（非公式）」を作成 <https://oita.stopcovid19.jp>
- ・オンライン診療の活用を推進
- ・キャッシュレス化を進め、感染症に強い店舗を目指す。
- ・5Gのエリア化を積極的に誘致するため、5Gを活用した地域課題の解決につながる実証に取り組む。
  - （R2年5月末現在：昭和電工ドーム、うみたまご館内施設）

## (2) 感染リスクの低い地方という強みを活かした新たな働き方の推進

- ・在宅勤務の定着という機会を捉え、ワーケーションも含めた新しい働き方の普及を図る。
- ・「都市部で働くことにリスクを感じたから」「テレワークで場所を選ばず仕事ができることが分かったから」(※) など、若者の意識変化を捉えた大分県への UI ターンや転職につなげる。

※ 5月29日開催の令和2年第8回経済財政諮問会議資料2-2より

⇒ 大分で働くことに関心がある福岡の若者も多く、また、その若者に興味ある企業も多い(6/30現在)：6/2にオープンした福岡拠点 dot. への来場者計1,965人。また、個人会員280名、法人会員50社

⇒ 「おおいた暮らし塾」(トークセミナー、個別相談等)

6/20：福岡(就農・就業フェア同時開催)、6/27：大阪

※ 7/11 東京、7/18 福岡、7/19 大阪

⇒ おおいた移住オンラインセミナー・サロン(毎月第1水曜日20時～)

6/17：日常に温泉のある暮らし、皆がともに生きるまち別府

7/1：農業で食べていく理想と現実

⇒ 福岡拠点「dot.」で学生をターゲットにしたトークセッションやワークショップをオフライン及びオンラインで開催

6/4 : オープニングガイダンス&トークセッション

6/12・6/25 : dot. キャリア相談室

6/28 : 企画宣伝部ガイダンス&ワークショップ

## (3) BCP策定

- ・災害対応のみならず、感染症への対応も含めた中小企業のBCP策定を普及させる。

⇒ コロナ禍における働き方に早期から取り組んでいる企業もあり。

⇒ 7/6に「働き方改革推進会議」を開催。テレワークを活用したBCP等について議論

## (4) 関係事業者による経済再活性化会議

- ・事業者ごとの委員会を設置し、新しい経済構築に向けた議論を開始  
商工団体部会、観光部会などの各委員会を設置